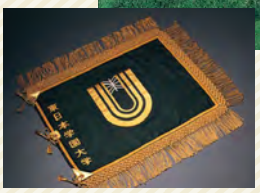


Health Sciences University of Hokkaido 50th Anniversary

創立50周年記念特別企画 第2弾

今後の医療大に期待すること

6名のSCP(学生キャンパス副学長)と10名の同窓会長が、
50周年を迎える医療大に、
あたたかいメッセージを寄せてくれました。
みなさまのご期待に添えるよう、
これからも医療大は、さらに進化を続けます。

1974-2024

SCP(学生キャンパス副学長)

コミュニケーション力を磨く、対面での意見交換の場を。

薬学科 2年
大川 哉汰

医療大では、多職種連携科目など自分とは異なる分野の人との合同授業があります。しかし、新型コロナウイルスの影響で、それらの授業がオンライン形式に。対面で直接話し合ったり、発表したりする機会はなくなってしまいました。私は、薬剤師に大切なのはコミュニケーション力だと考えています。今後は、さまざまな学部の学生同士が対面で積極的に意見を交換し、課題を解決する授業がもっと増えてほしいと思っています。

友だちと勉強できる小教室を増やしてください。

歯学科 1年
山本 史織

学生の立場から期待することは、2つあります。1つ目は、大雪などの影響で学校が休講になるときの連絡をもっと早くしてほしいです。寒い中、駅で電車を待つのは大変です。2つ目は、友だちと少人数で勉強できるスペースをもっと増やしてほしいです。大きな教室や図書館は、ほかの人たちも使っているので声を出しにくいです。新キャンパスでは、グループワークができる小さな教室をもっとつくってもらえるとうれしいです。

学生の不安を軽減できるのは、大学のキャリア支援です。

看護学科 2年
阿部 珠羅

卒業後の具体的な計画が立てられる環境を、これからも提供してほしいです。「キャリア開発論」という講義では、どのような現場で働くのか、どんな診療科を選ぶのか、在宅や救急などの道へ進むのかなど将来の姿を想像できたことで、勉強への向き合い方も大きく変化しました。一人ひとりの学生に対して、大学が積極的に進路設計のサポートを行ってくれれば、将来を考え努力する学生の不安は大きく軽減されると思います。

各領域のリアルを知り、進路選択に生かせるように。

臨床心理学科 2年
平田 勇輝

公認心理師は、「医療」「福祉」「教育」「司法」「産業」の5領域で働くことができ、幅広い分野での活躍が期待されている職業です。授業で公認心理師の方々のお話を聞く機会はありますが、関心のある領域のリアルをもっと深く知り、進路選択に生かせるように、各領域特有のお話を聞ける機会が増えることを期待しています。また、卒業生の方々や、大学院生、同学部の先輩・後輩との交流の機会も増えてほしいと思っています。

一人ひとりの理想が見つかる、非教科書的な体験の拡大。

作業療法学科 2年
田嶋 幸音

資格取得は通過点だと考えています。資格をどう生かすかで、人生は大きく変わると思うからです。どんな選択肢があり、それぞれの道を選んだ人たちは、どんなふうに働いているのか。それらのケースにたくさん触れることで、自分にとっての理想が見えてきますし、理想が見えれば勉強がさらに楽しくなります。資格取得に向けた教科書的な学びも必要ですが、一人ひとりが理想を見つけられる非教科書的な体験の拡大を望みます。

学習面にとどまらない、他学部との交流の活発化。

臨床検査学科 2年
鷲谷 杏実

医療技術学部は現在、札幌あいの里キャンパスで学んでいます。今後はキャンパス増設を機に、他学部との交流がもっと活発になってほしいと思っています。学習面でのメリットが増えることはもちろん、クラブ・サークルなどさまざまな活動に参加する学生もさらに増えることで、一人ひとりのキャンパスライフがもっと充実すると期待がふくらみます。今後も続く歴史の一部に、自分が加わっていることの喜びを感じています。

同窓会長

医療系総合大学として、さらにコミュニケーションを。

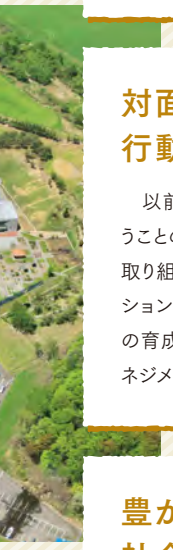
薬学部同窓会長
桂 正俊

私は当別キャンパスで最初に学んだ学生であり、大学の歴史の大きな1ページを過ごしました。現在、医療大は6学部9学科1専門学校の医療系総合大学に成長しました。近年は地域の多職種連携やチーム医療でも、医療大を卒業した医療・福祉・介護の関係者がとても多くなり、コミュニケーションが取りやすくなりました。今後は他学部の同窓会と連携を取り、医療系総合大学の強みをさらに生かしていけたらと考えております。

強く、優しく、柔らかく。人に寄り添う母校。

歯学部同窓会長
蓑輪 隆宏

子どもたちが実家に帰って落ち着き、穏やかな気持ちになるように。母校も、母のいる実家のような、多くの学生や卒業生が戻って自分の原点を見つめ直すことができるような、愛に満ちた空間になってくれることを期待します。医療大は、医療系総合大学として北海道の医療の屋台骨を支えています。今後はその特徴や価値をさらに生かし、愛あふれる多くの医療人を社会に輩出する大学であり続けてほしいと願っています。



対面で話をする意味を考え、行動できる医療人の育成。

看護学科同窓会長
川村 武昭

以前は、人と会うことは当たり前のことでしたが、現在は一度も直に会うことのない相手と信頼関係を構築し、困難なプロジェクトやミッションに取り組むことが日常となりました。医療大に期待したいのは、コミュニケーションの意義や必要性、対面で話をする意味を考え、行動できる医療人の育成です。医療系総合大学ならではの方法で、強靭な多職種連携をマネジメントできる専門職業人を育ててほしいと期待しています。

創造力と連帯の精神で、分け隔てのない社会へ。

福祉マネジメント学科同窓会長
小畑 友希

福祉マネジメントは、地域社会を豊かにすることだと思います。障がいのある人たちが地域で働くことを通して、社会が多様性を理解し、受け止めることになります。さらに、地域に必要とされ、経済活動にも一役担うことになります。福祉という糸口から、社会を変革することも不可能ではありません。医療大で培った創造力と連帯の精神で、障がいのある人もない人も分け隔てないことが当たり前の社会をめざせたらと思っています。

豊かな人間性を持つ、社会のニーズに即した人材を。

臨床心理学科同窓会長
上河邉 力

医療大での多くの出会いが、今の私を形成しています。仲間との関係は今でも続いており、一人ひとりが頼りになる存在です。先生方は、学生と接するその姿勢をもって、対人支援職のありようを教えてくださっていたように感じています。私たちに求められているのは、被支援者となる方の思いや状況に心から寄り添い、共感できる豊かな人間性。引き続き、社会のニーズに即した人材を世に送り出してほしいと願っています。

新たな柱のもと、選ばれる理学療法学科へ。

理学療法学科同窓会長
白幡 吏矩

チームで学ぶ経験は、卒業生の日々の業務に大きな効果を生み出していると実感しています。今後は、チーム医療、地域での経験に並ぶ新たな柱が生み出され、理学療法士の志望者に選ばれる理学療法学科、理学療法士が飽和する時代においても活躍できる人材を養成する理学療法学科へと、さらなる発展を遂げることを願っております。そして、卒業生を対象とした取り組みも、さらに幅広く展開していただきたいと期待しています。

キャンパス増設を追い風に、さらなる飛躍を期待します。

作業療法学科同窓会長
田丸 仁啓

私は作業療法学科の1期生として入学しました。不安を抱えながら大学生活をスタートさせましたが、同級生や部活の先輩方、教職員の方々のサポートを受け、学部学科にとらわれないつながりが、瞬く間に広がっていきました。4年間で出会った仲間たちは、今も大切な存在です。医療大は今年で50年、作業療法学科は11年目を迎えます。キャンパス増設を追い風に、医療系総合大学としてのさらなる飛躍を期待しています。

他学科との共学、交流で、時代に求められる専門職を。

言語聴覚療法学科同窓会長
石黒 恵美子

北海道内で、PT・OT・STの3学科がすべて揃っている大学は医療大のみです。他学科や他学部との共学、交流を通して早くからチーム医療を学べる環境は、ほかの大学にない大きな特長です。キャンパス増設計画については、新しい土地のメリットを生かし、今後も時代に求められる優れた専門職の育成を通して、地域社会にいっそう貢献していく未来の姿を想像しています。この先の50年にも、大きな期待を抱いています。

若い学部も一緒に、発展していけるように。

臨床検査学科同窓会長
古高 裕導

医療技術学部は、昨年初の卒業生を出したばかりの若い学部ではありますが、他学部と同様にこれからの医療大に貢献していくことを期待しています。同窓会では、勉強会やセミナー、懇親会などの活動を通して、在学生・同窓生をさまざまな面からサポートしていきます。創立50周年は、通過点のひとつであり、ゴールではない。副学長である和田啓爾先生がそう仰っていたとおり、今後もさらなる発展を願っています。

古い慣習にとらわれず、医療を変える。

歯科衛生士専門学校同窓会長
梶 美奈子

医療大のホームページにアクセスすると、「チームで学ぶ。医療を変える。」と大きなスローガンが掲げられています。私が学生だった大昔は、医療現場にも上下関係があったと記憶しています。しかし、医療大で学んだ同窓生たちは、古い慣習にとらわれず、お互いに協力し、高め合い、尊敬するという基盤を身につけているはずです。これまで以上にチームで学び、医療をさらに変えていく。今後の医療大が、とても楽しみです。